

豊川でアユ産卵場造成のお手伝い普請

9月10日(日)9時から昼前まで、地元漁協・市民25名がこれから産卵のために下ってくるアユのために産卵に適した河床にする作業が行われた。

CANも取材がてらお手伝い参加。ジョレンなどの道具は貸してもらえるが、長靴・手袋・飲み水持込が条件。長靴はリュックに入れて名古屋から持って行ったが、思いのほか重かった。アユのご成婚式場は漁協の判断で豊川市の三上橋上流と事前メールをいただいていた。



9時に三上橋に集合、現場までは車で移動。現場で受付・安全説明後川の中へ入った。ライフジャケットは暑いので誰も借りなかった。

産卵場はどのように作るかは水産庁ホームページでマニュアルが公開されている。<http://www.jfa.aff.go.jp/j/enoki/pdf/ayu1.pdf>。そもそも、なぜ造成が必要なのか？

- ① 一定範囲の水深と流速が必要
- ② アユが産卵のために尾っぽで砂を掘れる程度にゆるい河床である必要がある

従ってこういう条件がない川では人間が環境を作ってやらないと産卵してくれないことになる。

作業は水が集まってくるよう産卵部を掘削するとともに、固まった河床を耕うんする。その過程で大きな石は掘削の邪魔なので除けておく。……と作業は簡単であるが、人力で行うのは疲れる。思いのほか大きい石がたくさんあり掘削・移動の際、コシに疲労が来るためだ。従って、水産庁資料でも通常は重機で行うが、人力施工も小規模な場合は行われているとなっている。

また、この日は天気が良く、水遊びには最適と思

ったが、作業は大変で集まった人たちの年齢構成もサラリーマンなら定年以上が大部分なので休憩が多く作業ははかどらない。私も作業の翌日から2~3日は腕に力が入らず、缶ビールのプルタブを開けるのさえ苦痛だった。写真はお疲れモードの参加者。



このように心を込めて用意させていただいたアユ様のご成婚の場であるが、ご利用いただけるかは分からない。昨年の成績は良かったと聞いているが、水温が20度を下回るようにならないとアユ様は#気分にならないとかで、結果は当分分からない。下の写真は完成した産卵場。真ん中の水深が若干深くしてあり、大きい石は除けてある。#



ところで、今年も豊川のアユ漁は悪く、小型で数が少なかったという。では、親魚はどこから来るのか？なんでも支川に放流したアユが下りてくるのをあてにしているという。確かに現場は鳥がいない=餌(アユなど)がいない状態だった。しかし、家へ帰って見たニュースでは一宮のアユ競り市+木曾川産,では例年並みと報道していたし、矢作川も特別悪かったという話も聞かなかった。豊川は特別な事情があるのかもしれない。#

今後も豊川のアユがどうなるか折に触れて報告したい。#

事務局：山本